

北見工業大学

地域共同研究センター 概要



Cooperative Research Center
Kitami Institute of Technology

設置の目的

北見工業大学では、地域社会の発展に寄与し、民間機関等との連携を深めるために従来から種々の形態で共同研究を行ってきました。また、大学に対して社会の各方面から多様な期待と要請が寄せられています。

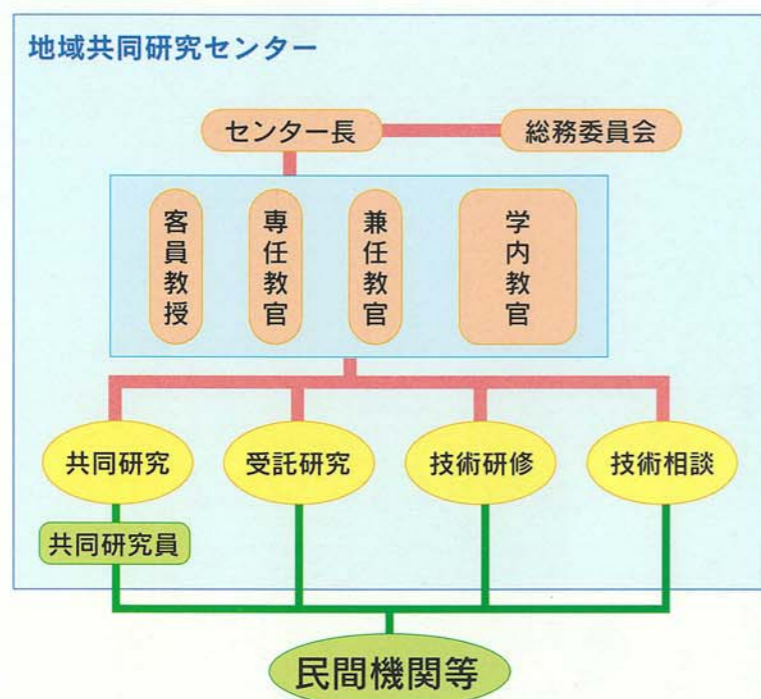
北見工業大学地域共同研究センターは社会のこのような要請に応え、今後更に共同研究を推進し、大学の活性化を図るとともに、真に開かれた大学としての役割を果たすために平成4年4月に設置されました。

業務内容

主な業務内容を以下に示します。

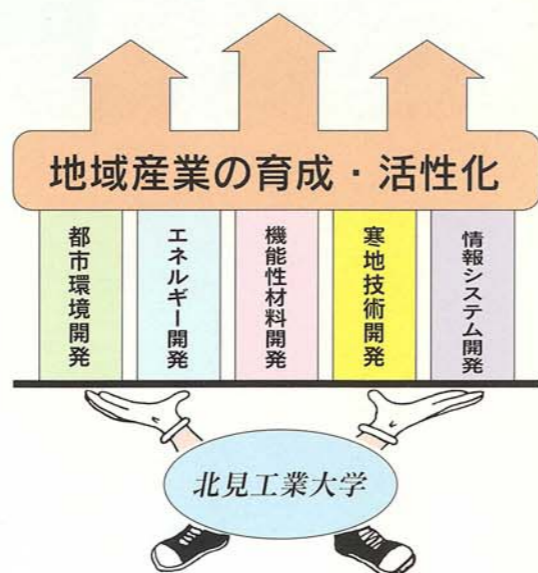
- 民間機関等との共同研究および受託研究に関すること。
- 民間機関等の技術者に対する高度技術教育の実施、協力及び援助に関すること。
- 民間機関等に対する技術相談に関すること。
- その他、技術セミナー、研修会の開催、産官学の意見交換、大学間の連携強化等、センターの目的を達成するために必要な事項。

運営組織



研究分野

共同研究をより効率的に推進するために、当センターでは大学の学科組織にとらわれず、学科横断的に教官グループを形成し、5つの研究分野を重点的に扱っています。また、これらの研究分野だけにとらわれることなく、新しい分野の研究開発も積極的に推進します。



共同研究の形態・区分

共同研究は、研究費負担の有無等によってつぎのA、B、Cの三つに区分され、研究の内容、規模、性格によって選択できます。

A：民間機関等から共同研究者と研究費を受け入れ、大学・文部省も研究費の一部を負担するもの（民間機関等の研究費負担が300万円を超える場合対象となる）

B：民間機関等から共同研究者と研究費を受け入れるもの

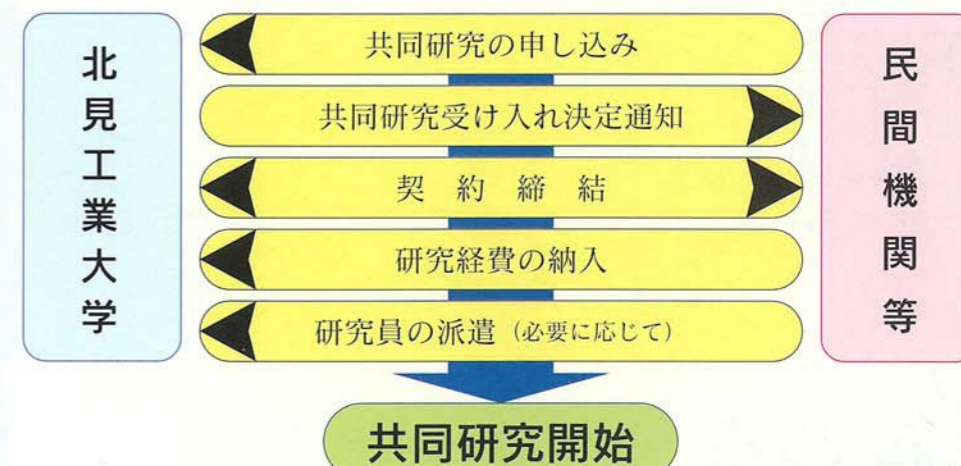
C：民間機関等から共同研究者のみを受け入れるもの

注：AとBにおいて分担型（大学と民間機関等の両方で研究が実施される形態）の場合、共同研究者の派遣は必ずしも必要ありません。

区分	民間等共同研究員の研究料 民間機関等	直接経費			経常経費
		民間機関等	国立大学等の既定経費	文部省より別途配分	国立大学等
A	○ (○又は×)	○ (○)	△ (△)	○ (○)	○
B	○ (○又は×)	○ (○)	△ (△)	× (×)	○
C	○ (○)	× (×)	× (×)	× (×)	○

注：○…負担する △…負担しない場合もある ×…負担しない ()内は分担型の場合 研究員の研究料は一人当たり42万円で、月割り計算はしない。

共同研究開始まで



注：区分Aは前年度のうちに申し込まなければなりません。区分B、Cについては随時受け付けています。

特許権の扱い

原則として本学と民間機関等が共同で特許出願し、その特許は共有となります。なお、特許権は民間機関等またはその指定するものが一定期間（出願から10年以上）優先的に実施することができます。また、この期間は必要に応じて更新することができます。

その他の制度

受託研究制度
委託者の経費負担により研究を行い、その結果を委託者に報告します。

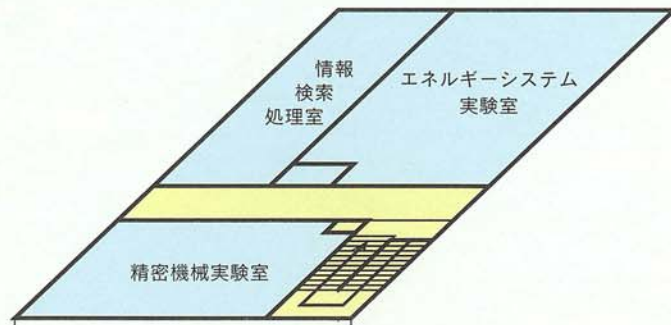
受託研究員制度
民間機関等の技術者・研究者に対して大学院レベルの研究指導を行います。

奨学寄付制度
大学の研究・教育の助成を目的として民間機関等から寄付金を受け入れます。（税法上非課税の扱い）

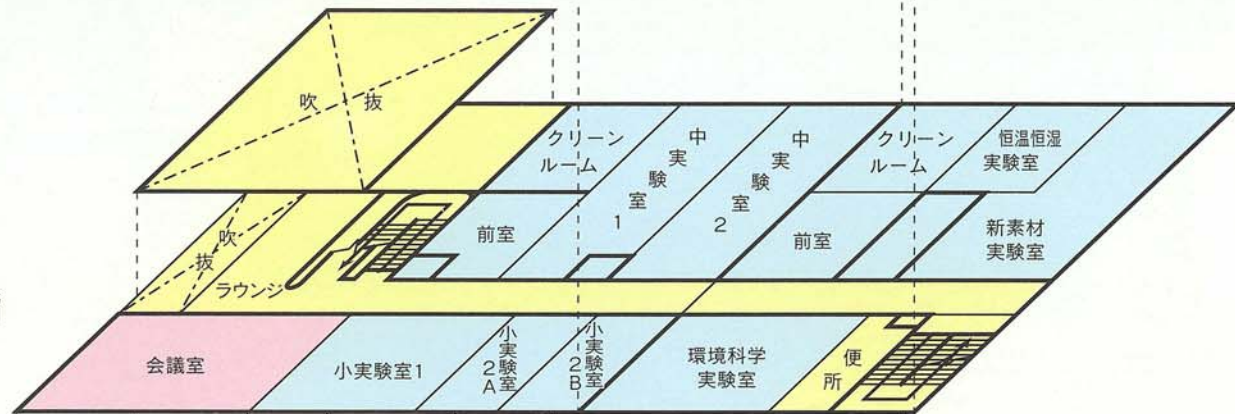
センター施設紹介

平成6年10月31日竣工
平成12年10月31日増築
延べ床面積 2,003m²

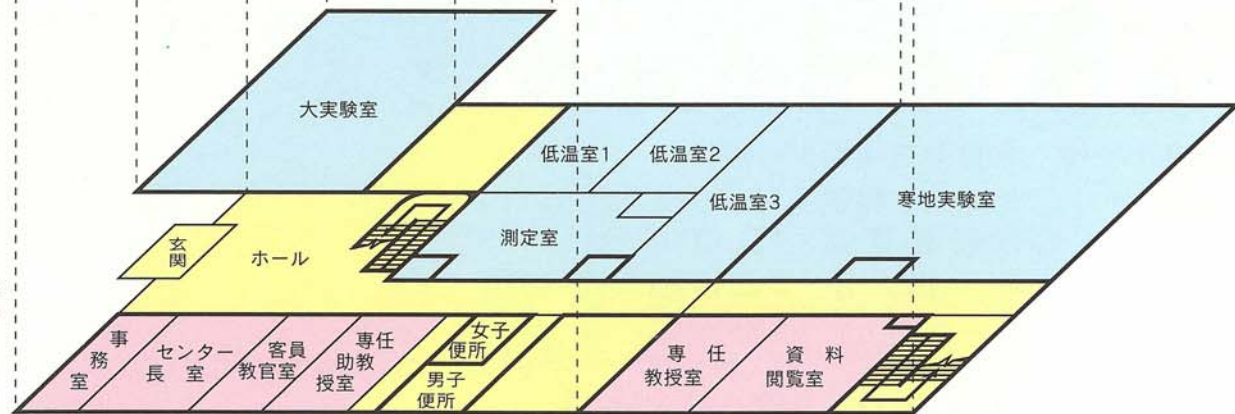
3階



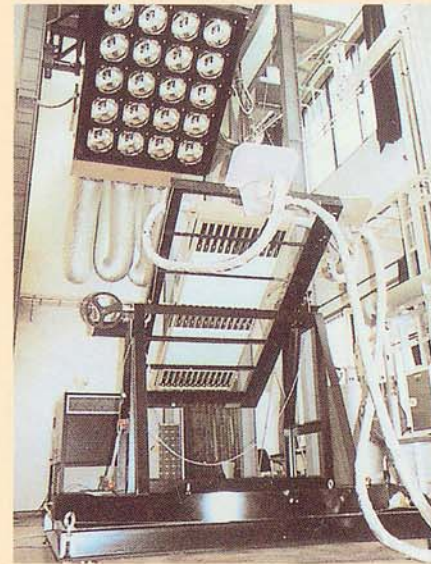
2階



1階



常設機器紹介



大型ソーラシミュレータ

キセノンランプ (8kW20灯) を使用し、自然太陽光に近似した光源部を持っています。ソーラコレクタや太陽電池の評価試験用周辺機器を装備。天候に左右されないソーラエネルギー関連の実験に威力を発揮します。大実験室に設置。

衛星画像受信解析装置

極軌道気象衛星NOAAの信号をセンター屋上のパラボラアンテナから受信、既設のGMS/WEFAX受信装置からひまわりデータの取り込みができます。これらの装置はネットワーク化され、多角的に衛星データを利用できます。小実験室2Bに設置。



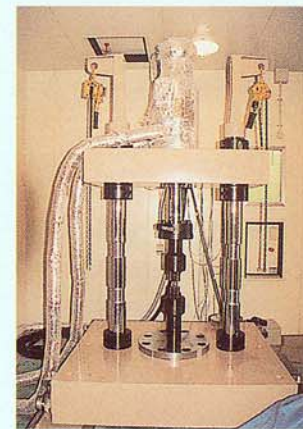
ICP質量分析計

マイクロ波誘導プラズマをイオン源とした質量分析計です。50種類以上の元素をpptレベルという超高感度に分析可能です。試料として水溶液、有機溶媒中のいずれでも元素を直接測定可能です。クリーンルーム前室に設置。

屋上のパラボラアンテナ



受信解析装置 (小実験室2B)

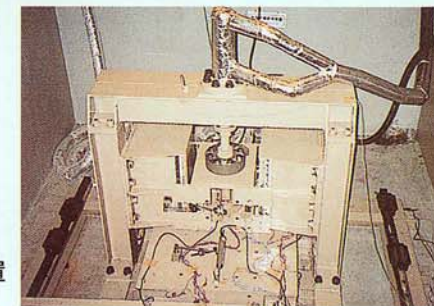


低温材料載荷装置 (低温室3)

低温域材料・構造実験システム

積雪寒冷地の自然環境とその下で発生する各種構造物の技術的課題を研究するための総合試験システムです。寒冷地の自然環境を計測する装置、低温下での材料や構造物の力学的挙動を調べる載荷装置、低温環境をシミュレートする装置など広範囲な試験装置から構成されており、寒冷地の技術課題の解決に大きな力を発揮しています。低温室1～3および寒地実験室1などに設置。

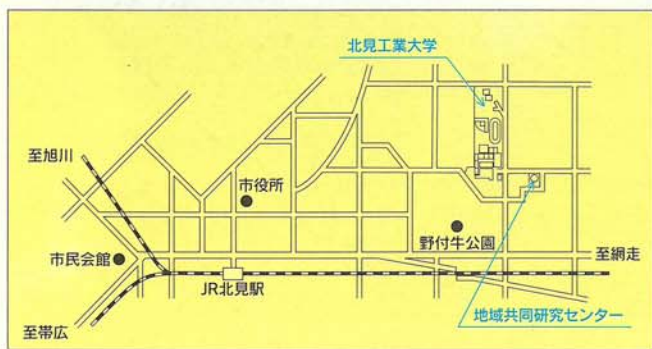
低温構造物加振装置 (低温室3)



試験用変圧器 (屋外)



低温環境シミュレーション室 (寒地実験室1)



地域共同研究センターまでの交通機関

女満別空港から
車を利用して40分
連絡バスを利用して55分

JR北見駅から
車を利用して8分
バス（三輪・小泉線）を利用して10分

センター刊行物

- センターニュース(年1回)
- 共同研究成果報告書(年1回)
- 共同研究のための教官要覧(不定期)

ご入用のものがあればセンターまでご連絡
ください。無料で送らせていただきます。

お問い合わせ先

北見工業大学 地域共同研究センター

〒090-0013 北見市柏陽町603番13

- センター長室 TEL(0157)26-4170
- 専任教官室 TEL(0157)26-4163
- 事務室 TEL(0157)26-4161
FAX(0157)26-4171
- E-mail center@crc.kitami-it.ac.jp

ホームページもご覧ください。

URL <http://crcenter.crc.kitami-it.ac.jp/>